

永平寺町幼稚園・幼稚園施設再編検討委員会 会議録（第4回）

日時	平成31年1月29日（火） 19:00～
場所	永平寺町役場 大会議室
協議事項	施設再編について（答申）に向けた意見交換会

グループワーク発言記録（意見交換会）

Aグループ グループワーク発言記録

1. 就学前教育・保育（幼児教育）のあり方

- 幼児教育で人生が決まるので重要
- 友達との遊びの中で楽しく学べる程度の知識や生活習慣の学び
- 先生・幼児がステップアップ
- 友達づくりの中で競い、思いやり
- 幼児・先生が笑顔で楽しい
- 愛・マナー・食育・遊びで学び
- 家庭教育における食育の大切さを就学前から保護者にアピールしていく
- 子どもの感性の育み（家庭教育）。就学前に。そのことを踏まえて教育にあたる
- 松岡小学校区のみ4幼稚園があり規模に差がある。小学校に入った時に友達の数に差ができる。均一化が必要

2. 幼稚園・幼稚園の適正規模（定員・年齢構成）

- 0～2歳は少人数、3～6歳は10人以上
- 年齢ごとに20名程度のクラスを必要な数つくる
- 松岡地区においては希望する園に入園できず小学校区を離れて入園しているケースがあるので、せめて小学校内での入園が必要。定員の変更が必要
- 松岡以外は1小学校に1園があるので地区によって園児数の差があるがほぼ問題はないと思う
- 2, 3, 4は幼・小・中流れ、関連付けた考えも必要では。幼だけに注目するのは全体が見えなくなる

3. 幼稚園・幼稚園の適正配置

- 2カ所に配置できるとよい
- 清水幼稚園のような理想的幼稚園をつくる。幼児教育に未来投資をする
- 車社会なので訂正（子どもの人数）を考える
- 松岡地区に4園は必要なのではないか。車での送迎がほとんどであり小学校へ行くのは歩いていくことから
- 何をもっての適正？多角的な見方を

- 町内人口減に伴う子供の減少は明らか。総統合による適正配置は望ましいが地域の理解はどこまで得られるのか？疑問です
- 高齢者デイサービス施設との交流。設置場所は病院の近く

4. 幼児園・幼稚園の運営のあり方について

- 公立と民間の両立もよいと思う
- 民間委託する部分、公立は例えば7時～18時、18時～以降運営できる
- 民営にすると弱い（小さい）園からなくなるのでは？
- 民官間企業の活用できるか、例えば公立病院
- 園によって特色をもたせることで保護者の選択ができるようになるのではないか
- 0～3歳児は町全体で。4～6歳児は独立した運営
- 幼児数が少なくなってきたからの対応では遅すぎるのではないか
- 職員は基本的に全員正職としてほしい
- 非常勤の保育士に対する依存が多すぎる。正職の拡大を
- 幼児が育つ為に先生の働き方の改善。開かれた園
- 先生が安心して働いて子どもの教育をよくする環境づくり

5. 地域における幼児園・幼稚園のあり方について

- 子どもは共同（園・家庭・地域）で育つ。地域の宝である園という考え
- 地域とは関係が薄れているので園の開放等地域密着にすべきではないか。地域の人々の関心が薄れている
- 過去に幼児園の真向かいの家の子どもがその幼児園に入れないことがあった。車の駐車（送迎）等で迷惑をかけていることがあるので考慮すべき
- 公立でやるべきことと民間でやることの区分
- 高齢者との交流を深める機会を増やし子どもたちの感性を深める
- 世代間交流の場。子・親ともに
- 外国人の子どもの増加を見込みグローバル的な取組が要される
- 地域との関係は主にお年寄り中心なので幼児に関してあまり主要ではないと思っている

Bグループ グループワーク発言記録

1. 就学前教育・保育（幼児教育）のあり方

(1) 身に付けてほしいこと

- 人数が少ないから穏やかになってほしい。
- 礼儀を身に付ける。
- 社会の一員となる上での基礎として自分に自信が持てる人格に育ててほしい。
- いじめが社会問題になっているので、人間関係、協同性、博愛が必要である。
- 自立心を身に付けさせ、甘えをなくす、自分で身支度ができるようにする。
- 主体性。
- 協同性。協調性。いじめなどがある場合、思いやりの心である協同性が必要である。
- 道徳性。
- 豊かな創造力。
- コミュニケーション能力。
- たくましさ。

(2) 環境

- 複数の先生方の目で子どもたちのよいところを見つける。多人数の子どもを他人数の先生で見る。
- 現在、小学校4年生から実施している福祉教育（禅）を早めに行う。

2. 幼稚園・幼稚園の適正規模（定員・年齢構成）

- 人数は多いなら多い方がよい。しかし、少なければ、その分子どもに目が届きやすいと思う。
- 定員については理想的な人数に近づけるべきである。
- 各年齢につき20～25人が適正である。
- 定員は約50～100人が適正である。（音声を踏まえると同年齢児の数ではなく、園の規模の話か？）
- それぞれ20人程度が適正である。
- アンケートでは10人がキーポイントだったが、3歳は1クラス20人前後、4～5歳は1クラス30人までが適正である。1園あたり100～200人はほしい。
- 社会の一員として生きる基礎を育てる場とするために3歳は1クラス20人前後、4～5歳は30人までを理想としてほしい。

3. 幼稚園・幼稚園の適正配置

- 建物の老朽化を最優先に対応してほしい。
- 先生を有効に活用するためにも定員割れの地区との合併・統合も避けられないのではないか。
- 自分が子どものときは各クラスに30人くらいいたが、子どもが少ないのはどうしようもないと思う。
- 適正な広さの運動場を確保してほしい。

- ゆったりとした駐車場がほしい。
- 保護者にとって送迎が多少大変になったとしても、子どもの育ちを1番に考えるべきである。
- 施設が少々古かったり狭かったりしても、安全が確保できるなら人への投資を期待する。
- 定員を確保できるように統合や施設の再編などを行うべきある。
- 0歳児等は通勤経路など便利な場所に立地する幼児園・幼稚園に入ってもよいのではないか。

4. 幼児園・幼稚園の運営のあり方について

(1) 公立

- 現在の園児の保護者は行政リードの安心・平等を願っているように思える。民営化はなかなか難しいのではないかと思う。
- 均一な運営。
- 公立が望ましい。サービスの平均化に不安がある。
- 公立が原則である。
- 現状のままで問題ないと思う（志比南）。

(2) 民営化

- 民間のサービス力は高い。もし永平寺町に民間が運営する幼稚園・保育園ができた場合、町の幼児園はどのようにアクションをとるか。

(3) その他

- 教育環境の充実。
- 園は子どもの育ちの場であるとともに、先生方の育ちと成長の場であると思う。日常から考え、研修の場とするために複数の先生がクラスに入ることを願う。

5. 地域における幼児園・幼稚園のあり方について

- 理想は現状の通り地域密着がよい。しかし、少子化に伴う困難もあるため、複雑である。
- 幼児園・幼稚園が地域を作るのではなく、保護者が地域を支え、作っていくものなのではないか。
- 地域との連携は必要だが、幼児園・幼稚園の教員の仕事の中に地域に関することも含めるのではなく、住民と子どもの関わりは基本的に公民館などの役割ではないか。
- 高齢化社会と少子化を相互にカバーできるものであるべき。
- 小学校と幼児園・幼稚園がそれぞれ独立しているのはよくない。隣接していることが望ましい。
- 今のままで問題ないと思う。しかし、現場で先生の人数が足りているのかが心配である（志比南）。

C グループ グループワーク発言記録

1. 就学前教育・保育（幼児教育）のあり方

(1) 身に付けてほしいこと

- 兄弟の少ない家庭が多いため、家では味わえない人と人との関わりの中から生まれる思いやりを感じて学んでほしい。
- 大勢の中で切磋琢磨させて自立心のある子を育てる。
- 思いやりの心。
- 協調性。園児が1つの事に対して協力しながら行動できる機会を増やしてほしい。
- 規律性と協調性を身に付け、小学校就学前にある程度何でも1人でできるようになってほしい。
- 子ども同士で楽しく話し、活動できるようにする。
- 朗らかに伸び伸びと活動・行動できるようにする。
- 規則正しい生活を身に付けさせる。
- 運動力をつけて元気な子どもに育てる。
- 人の話を聞ける子どもに育てる。
- 少しでも多く同世代の子どもと交流し、集団生活に慣れさせ、小学校での生活にスムーズに移行できるようにする。

(2) 環境→人数規模の部分で扱う

- 先生の目に届く範囲で、十分に気かけられるだけの人員を確保する。
- 先生と子どもが十分に時間をとることができる人員配置にする。
- 1人1人の子どもに目が届く満ち足りた環境をつくる。
- 先生と保護者が十分に連絡をとり合い、話し合うことができる体制を構築する。
- 地域での生活範囲内に園がある環境をつくる。
- 保護者が安心して子どもを預け、働ける環境をつくる。
- 保護者・養育者が送迎しやすい環境をつくる。
- 自然と触れ合える環境をつくる。

2. 幼児園・幼稚園の適正規模（定員・年齢構成）

- 0～2歳児は10人程度になってもよいと思うが、25～30人程度で、全体で100人弱くらいがよい。
- 年長は20～30人くらいの規模がベストではないかと考える。未満児では10人までがよいと考える。
- 年少においては5人未満の少人数でも十分ではある。しかし、年長においては、相互に関係を構築することができる人数が必要である。
- 20～30人。特に5～6歳児については人間関係の構築のためにも20～30人が望ましい。
- 幼児園として大きな施設を作り、広い場所で1クラス20人単位とすることが望ましい。
- 地域性もあり、一概には言えないが、子どもたちが相互に高めあい、コミュニケーション能力

を高めるためには10人以上など一定の人数が必要である。

- 法定の定員に縛られずに考えることも必要である。
- 定員や年齢構成だけで論じるのではない体制が必要である。

3. 幼稚園・幼稚園の適正配置

- 現在の施設は老朽化しているため、将来的には再編も考えていくべきである。
- 上の子が在園しているのに、下の子を入園させるときに抽選とならないような園の規模や先生の配置にする必要がある。
- 地域でまとまりがあり、ある程度の人数がいる場合はそのままの体制とする。狭い場所で多くの子どもが活動するという状況では子どもらしく伸び伸びとできない。その場合は統合などによって広い場所で活動できるようにする必要がある。
- 保護者、特に働く母親の勤務地、通勤圏にも関係することである。
- 地形や小学校区とも連動させて考えることが必要である。
- 地域ごとにある程度の再編は必要であると考え。永平寺地区、松岡地区など。

4. 幼稚園・幼稚園の運営のあり方について

(1) 公立

- 可能ならば公立として運営してほしい。園ごとに指導にばらつきがあることが不安である。独自の幼児教育を求める人は既に町外へ行っている。
- 公立としての運営を希望する。可能であれば正規職員の採用を増やしてほしい。
- 公立が理想だが、各家庭に事情があり、要望も多様であると考えられる。そのため、自由な民間が1つくらいあってもよいのではないか。
- 民営化するためにはある程度の子ども的人数がいないと運営できないと思う。母親としては、公平な保育料であってほしいと思うので、町全体で1つの施設でよい。

(2) 民営化

- 将来的には民営化も視野に入れても良いと考える。教育の充実や選択肢の増加などのメリットもある。

(3) その他

- 教育方針についても公平にする必要がある。
- 食事について、アレルギーへの対応を行い、栄養、量、時間を確保する必要がある。

5. 地域における幼稚園・幼稚園のあり方について

- 子どもにとって何が最も重要であるかを主として考えてほしい。
- 地域に関わることも重要だが、子どもが子どもらしく活動できる施設・建物で伸び伸びと育つことを第1にしてほしい。